



被曝と帰還の強制をゆるさない！



ふくしま共同診療所 報告会



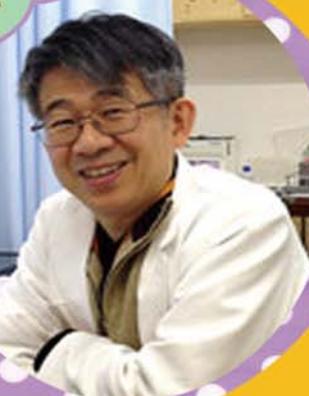
ふくしま共同診療所は、震災や原発事故により予想される健康被害に真正面から取り組むべく、国内外から寄せられた募金によって2012年12月に開院。

増え続ける小児甲状腺がんを隠ぺいし、避難者への住宅提供を打ち切って帰還を強制、放射能の影響をなかつたことにしようとする、日本政府のあり方に真っ向から反対してきました。

「避難・保養・医療」の原則のもと、日常的な診療と甲状腺エコー検査、仮設住宅の訪問など、福島の人々と共に「健康と命を守る」行動に取り組んでいます。

2016年末からは「被曝と帰還の強制反対」の署名運動を開始し、すでに全国から3万筆が寄せられています。

原発事故にともなう
健康上の不安や質問など
個別の健康相談も
受け付けています。



2017年6月18日(日)

永福和泉地区民センター 第4集合室（2階）

京王井の頭線「永福町」駅から徒歩3分

14:00開場 14:30開会

資料代：300円

※避難されている方・大学生以下は無料です。

※託児を希望される方は事前にご連絡ください。

おはなし：杉井吉彦さん

ふくしま共同診療所医師
国分寺・本町クリニック院長

★お話の後、それぞれの疑問や想い、これからのこと話し合う茶話会を予定しています。
(お茶とお菓子をご用意します)



よびかけ★すべての原発いますぐなくそう！全国会議・NAZEN東京

東京都杉並区天沼2-3-7さかいビル3B info@nazen.info TEL 090-6658-1544 (北島)

twitter @nazen_tweet WEB-site <http://nazen.info/>

191人の子どもたちの 甲状腺にがん

6月5日、福島県県民健康調査検討委員会は、福島県の子どもたち6人から新たに甲状腺がんが見つかったと発表しました。がん(ないし疑い)が見つかった子どもたちはこれまでに191人にのぼります。「10万人に一人」と言っていた小児甲状腺がんが、福島県では3千人に一人という異常な状況です。

さらに、県民健康調査の甲状腺検査で異常がみつかり、通常診療での経過観察となっていた原発事故当時4歳だった子どもが、手術を受けていたことが明らかになりました。通常診療を受けている子どもたちは2500人を超えていましたが、その子どもたちからがんが見つかっても検討委員会の数には含めないとされています。それどころか、「検査体制を縮小すべき」ということまで言われています。

震災・原発事故から6年がたち、ますます甲状腺検査の拡充が求められています。

東京でも 甲状腺検査をやっています

本町クリニック

国分寺市本町2-7-10
エッセンビル2階
☎ 042-324-6643
※予約制ですので事前に
お問い合わせください



被曝と帰還の強制に反対! 3万筆を超える署名

今年4月1日をもって、帰還困難区域をのぞく避難地域の避難指示が解除されるとともに、「自主避難者」への住宅無償提供が打ち切られました。帰還を強制する避難指示解除、住宅提供の打ち切り、甲状腺検査の縮小を進める安倍政権は絶対に許せません。原発事故の責任はすべて政府・東電にあります。

「被曝と帰還の強制反対署名」は全国から3万筆が寄せられています（2万7千筆を福島県に提出済み）。署名運動を広げ、政府・東電の責任を追及しましょう。



福島県に署名を提出しました（5月18日）

北富士保養カンパにご協力お願いします

福島の子どもたちを放射能から守るために毎年8月、北富士での保養を行ってきました。福島からの交通費・宿泊費などで約100万円かかります。ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座 00120-8-763817 NAZEN

ゆうちょ銀行以外からのお振込みの場合 ○一九店 0763817

※通信欄に「保養カンパ」とご記入ください